

～ ヴァナッカム ～  
**வணக்கம்**

スリランカ通信 No. 8

平成 29 年度青年海外協力隊

和田さとみ

環境教育

**வணக்கம்**(タミル語:ヴァナッカム=こんにちは) 日本は、いよいよ夏本番に差し掛かる頃かと思われています。7月に入れば、巷は夏の高校野球で盛り上がる頃ですね。スリランカではクリケットが盛んです。日本ではあまり知られていませんが、クリケットは、野球のもとになったイギリス発祥のスポーツ。国民のスポーツも、イギリスによる植民地化時代の名残です。※クリケットとは？【<https://ja.wikipedia.org/wiki/クリケット>】



↑クリケット選手とクリケットバット

**ゴミ処理の社会見学 @最終処分場**



みなさんはきっと小学生の時にゴミ処理場の見学に行った経験があるかと思います。日本は、環境教育が学校教育の中に効率よく組み込まれているので、自分の身の回りの整理整頓やゴミのポイ捨てが「悪いことだ」という認識、また分別についても自然と学校にいれば、学ぶことができる環境にあります。しかしスリランカでは全くそのような仕組みがなく、大人も子どもも平気でポイ捨てをし、分別の意識もその重要性もわかっていません。ゴミを処理する労働者がいるので、「ゴミの処理は労働者の仕事だ、我々には関係ない」という様です…。しかしながら、スリランカには「 Deng 熱」という蚊が媒介する、死にも至る伝染病が世界的にもトップレベルで流行っています。(今のところワクチンはありません) 道端にポイ捨てされたビニールやペットボトルに水が溜まり、そこにボウフラが湧いて蚊が大量発生する可能性があります。現在保健省が学校を訪問して、 Deng 熱防止の講座を各所で開いていますが、知識はあれど実行まではなかなか…人の意識はそう簡単には変わりません。私がここに来たのは、そういった意識変容のための各種提案です。出口の見えない、長い長い道のりのスタート地点に立っています。私は人を変えることはできません。しかしちょっと立ち止まって、今の状況を考えてもらう機会を作ることはできます。どうしたら気付いてもらえるのか…毎日試行錯誤です。



↑保健省のエリア課長からゴミ処理の仕方を学ぶ



↑校長先生も参加。処分場課長(右)の話聞く



↑処分場でできたコンポストで作った野菜園

有機ゴミの堆肥化(コンポスト)の授業を進めていく中で、「学校でコンポストを作るので、最終処分場での堆肥化(コンポスト)を实际見てみたい」、という学校ができました。そこで市役所、保健省に掛け合っ、最終処分場の初めての社会見学が実現しました。一人でも多くの若い世代がこうして廃棄物の処理を实际に見て、聞いて、体験して、学ぶことは、これからのスリランカの未来にとって本当に大切な経験だと思います。

**教育委員会での活動 (校長会議とワークショップ)**

6月12日、再び校長会議に参加しました。5月中旬にはバットィカロア市役所管轄内39校を一通り巡回し終わったので、その経過報告と学校の意識変容の観察を報告しました。9月以降はバットィカロア市役所管轄外地区の学校(26校)からも要請があったので、そちらにも訪問する予定です。

また6月29日は、教育委員会からの要請で、職員対象の環境啓発プログラムを実施しました。日本にかつてあった環境問題の話や、分別をしないことで起こりうる環境問題、また実際に古紙を使ったリサイクルボックスの製作(スリランカ通信No. 3を参照)やペットボトル効果的リユース法を紹介しました。教育長も、ワークショップに参加してくださいました。



↑教育委員会 職員対象のワークショップ

## 学校リサイクルガーデンの企画



↑リサイクルガーデンの現場 (BEFORE)

ある日、巡回先の学校の先生が、学校や家庭でのプレッシャーに悩む生徒たちが、ホッと憩えるような庭を学校に造ってもらえないか、と私の配属先であるパッティカロア市役所を訪れました。市役所のコミッショナー(私の上司)からリサイクルガーデンの企画をしてほしい、という要請を受け、庭のデザイン(3案ほど)、必要な廃材、また生徒たちの協力を経て、庭造りのコーディネートを行いました。まずは、先生方にモデルとなるような庭を見ていただいたかったので、以前も最終処分場の課長とグループリーダーと訪問(詳細はスリランカ通信 No.7)した、リサイクルガーデンを積極的に展開している学校を再訪問しました。校長先生直々に紹介してもらいました。当日は先生や生徒たちとワイワイ庭造りをしました。ここが憩いの場になることを祈って。



リサイクルガーデン優秀校の訪問



先生方のセンスがキラリ



庭造りに必要な廃棄物を配置して…



みんなで造るから価値があるね



リサイクルガーデン (AFTER)

## スリランカの豆知識：熱帯のフルーツ

南の島の気候がはぐむ南国のフルーツは、スリランカ人にとって薬と同じ。カルシウムやビタミンが豊富で、中には癌予防となる成分を含むフルーツも！今日は日本では見かけないような、6、7月旬なフルーツを幾つか紹介します。こちら→ジャックフルーツ。木の枝からいきなり実が現れます。これはまだ小降りですが、大きいものだと直径50cmくらいのももあります。中は黄色の実でぎゅー！甘くて食べ応えがあり、腹持ちも良いです。大きな種(写真右)が黄色の実の中に一つずつ入っています。スリランカ人の凄いところは、この種もとっておいて、あとで蒸かしてカレーに入れます。種もジャガイモみたいでおいしいです。全て余さずいただきます。



続いてこちら  
←ランブータン。

赤いモジャモジャの外見がかわいらしい。このように山積みされて、道端の露店で売っています。1kg=100 ルピー 日本円でたった、70円です。安いっ！ビタミンCや鉄分、カルシウムが多く含まれています。ライチのような半透明の果実で、すっきりとした甘みです。年中暑いスリランカでも、1年の間に様々な旬のフルーツが食べられます。まだまだ紹介しきれないほどのフルーツがありますが、今日はここまで。



国際協力に興味のある人は 独立行政法人国際協力機構 (JICA)

<https://www.jica.go.jp/> をチェック！

では、スリランカ通信 No.9 で会いましょう！



